

開けてびびり！

赤いごみ袋に

隠された真実

固クリーン推進課 ☎ 252-7165

下の表を見てください。これは市が平成26年度に行った下関市ごみ組成調査です。

ごみ組成調査って何？

皆さんの家庭から出された燃やせるごみ袋を回収(夏2回、冬2回)して、無作為にごみを抜き取ります。抜き取ったごみの中に何が入っているのかを22種類の項目に分け、紙類やプラスチック製容器包装などリサイクルできるものや再利用できるものがどれくらい含まれているのかを調べました。この調査結果は、将来的にごみの減量化・資源化を進めていくための資料となります。

今回の調査結果から何が見えるのでしょうか？

下関市ごみ組成調査

分析項目	A 平成26年度 調査(%)	B 平成18年度 調査(%)	増減 (A-B)
a 紙類(b~g 以外のもの)	17.1	16.6	0.5
b 新聞紙	7.1	4.9	2.2
c 雑誌類(コピー用紙等事務系用紙を除く)	4.6	4.9	-0.3
d 段ボール	0.5	0.7	-0.2
e 紙パック	0.9	0.9	0.0
f コピー用紙等事務系用紙	0.7	1.5	-0.8
g その他紙製容器包装	2.8	7.0	-4.2
h ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類(i~l 以外のもの)	7.1	6.0	1.1
i ペットボトル	0.0	0.0	0.0
j その他のプラスチック製容器包装(ラップ、シート類)	1.1	1.1	0.0
k その他のプラスチック製容器包装(ボトル、カップ、トレイ類)	2.7	0.8	1.9
l その他のプラスチック製容器包装(汚れが取れないもの)	2.0	0.6	1.4
m 布類	7.5	7.0	0.5
n 木・竹・わら類	2.0	5.3	-3.3
o ちゅう芥類(生ごみ)	37.2	39.6	-2.4
p 有害ごみ	0.0	0.0	0.0
q 燃やせないごみ	0.9	0.0	0.9
r 瓶	0.0	0.0	0.0
s 缶	0.0	0.1	-0.1
t 缶以外の金属類	0.4	0.1	0.3
u その他複合品	3.0	0.5	2.5
v その他(寸法約5 ³ / ₁₆ の目のふるいを通したもの)	2.5	2.4	0.1



真実その1

紙類、新聞紙
8年前に比べて

2.7パーセントも

増加!



紙類・新聞紙など、8年前に比べて**2.7パーセント増加**していることから、皆さんの分別の意識が薄れてきていることが分かります。きちんと分類して古紙として回収されれば、新聞紙は、新聞紙の原料として再生利用される他、週刊誌、印刷用紙などの原料としてもリサイクルされています。古紙も貴重な資源です。紙から紙にリサイクル

ルすることで、不要な森林伐採を減らすことにつながります。日頃から「少しくらい大丈夫」という気持ち無くして、「**紙も資源**」という気持ちを大切に、分別に心掛けましょう。
★新聞紙・雑誌類は、45リットル以内の中身が確認できる透明か半透明の袋に入れて出してください
★古紙ごみ処理手数料は無料です!



★古紙は、ごみステーションで行政回収される他、自治会や子ども会、スポーツ少年団などが行う集団回収に協力することも、資源とすることが出来ます。市では、集団回収を行った団体に、1キログラムあたり5円の奨励金を交付しています。事前に団体登録が必要です。奨励金制度の詳細内容は、クリーン推進課に問い合わせください。

真実その2

プラスチック製容器包装
8年前に比べて

1.9パーセントも

増加!



分別間違いが多いプラスチック製容器包装も、8年前と比べて、**1.9パーセント増加**しています!

プラマークが付いているものや表示による指示があるものは**青色**の指定ごみ袋に入れるものです。(詳しくはごみ百科で確認してください)



正しく分別されたプラスチック製容器包装は、何に生まれ変わると思えますか? 身近なものでは、私たちが日頃からよく使うボールペンや蛍光ペンなどの事務用品に再生利用されています。エコマークが付いている商品が再生利用されています。



捨てる前にもう一度確認を!
すすぎ洗いで汚れの落ちそうなものはありませんか? できるだけ汚れを落としてプラスチック製容器包装として分別するだけで、混入の割合は減少します。まずは肉・魚などのトレーの汚れを落としてプラスチック製容器包装ごみへ入れるなど、取り組みやすい方法で再資源化に協力をお願いします。

真実その3

ちゅう芥類(生ごみ)

全体の

37.2パーセント



生ごみは8年前より減っているものの、全体のおよそ**37.2パーセント**も占めています。生ごみを減らせば、全体のごみの量も減ります。生ごみは、堆肥化容器を使って肥料にすることが出来ます。ぜひ挑戦してみませんか?
★**生ごみ堆肥化容器補助金**

捨てる時の注意!
生ごみに多くの水分を含んだままの状態では捨てると、ごみステーションまで運ぶのも重くて大変。収集されて集められた後も、水分をたくさん含んでいるため焼却にも時間がかかり、その分のお金もかかります。「**捨てる前にひと絞り**」を合言葉に、生ごみに含まれた水分を減らしましょう!



さらなる減量を目指して

市では、平成29年度までに1人1日当たりのごみの排出量を**980g**以下に、再生利用率を**29%**まで上昇させる計画を立てて、減量化を進めています。平成25年度実績の1人1日当たりの排出量**1071g** / 人・日で考えると、**91g** / 人・日の減量が必要です。今後も正しい分別をして、ごみの減量に取り組んで**資源循環都市ものせき**の実現に向けて頑張りましょう。